

主な内容

- 1~2……歴史を刻んで760年余り 伊賀一ノ井松明調進
- 3~7……なばり市議会だより
- 8……年金通信、アドバンスコープADSホール催物

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp ㊚http://www.city.nabari.lg.jp

2月11日 松明木づくり

極楽寺(赤目町一ノ井)所有の松明山から樹齢100年ほどの節のない檜を伐採。丸太にして、約1キロ離れた極楽寺まで運びました。

丸太の皮をはぎ、昔からの規格に切りそろえ、1200枚の松明木に調製していきます。今年も名張高校の生徒らの協力も得ながら力を合わせて松明木を作りました。



歴史を刻んで760年余り

伊賀一ノ井松明調進

東大寺二月堂で行われる修二会(お水取り)に用いられる松明を納める「伊賀一ノ井松明調進行事」。約760年続く伝統行事です。今号では、伝統を絶やさず、歴史・文化を今に引き継ぐ、「伊賀一ノ井松明調進」の伝統行事と、伊賀一ノ井松明調進 講長 大久保 壽嗣さんの思いなどを紹介します。

図 文化生涯学習室 ☎63・7892

3月10日 松明完成報告

松明寄進を遺言した道観長者を祭る道観塚で、松明の完成を報告し、道中の安全を祈願する法要を行いました。



関西に春を告げる東大寺二月堂で行われる修二会(お水取り)。これに用いられる松明木を納めているのが赤目町一ノ井の住民で構成される「伊賀一ノ井松明調進」の皆さんです。この松明調進行事は、約760年前に、この土地に住んでいた道観長者の遺言で始まったとされています。多くの人々の支えによって伝統が引き継がれ、当時の様子を垣間見ることができ

貴重な文化遺産となっています(市の無形民俗文化財)。完成した松明を担ぎ、奈良県境の笠間峠の険しい山道を、歴史の重みを感じながら、越えていきます(現在は、旧笠間小学校からはバスで東大寺へ向かいます)。東大寺南大門で出迎えを受けた後、二月堂に上納して五荷の松明を奉納しています。

3月12日 東大寺に松明寄進

日の出前から、「伊賀一ノ井松明調進」の皆さんと、これを支える名張青年会議所会員・OBでつくる「春を呼ぶ会」、近大高専の生徒、一般参加者ら約120人が、極楽寺に集まり、約32km離れた東大寺へ向け出発しました。



2ページには、「伊賀一ノ井松明調進」講長と参加者へのインタビューを掲載